

「モータースポーツ」特集にあたって

平岡敏洋*

Motorsports : Introduction

Toshihiro HIRAOKA*

1. 特集の背景

ドライバーやライダーといった操作を行う競技者だけでなく、定められたレギュレーションの中で車体を開発・製作する技術者、そして、チームをマネジメントするスタッフにとって、レースはまさしくスポーツである。オリンピックの陸上競技に観客が熱中するように、モータースポーツは多くのファンを魅了するエンターテインメントとしても長い歴史を持つといえよう。

私自身も幼少時より、その魅力に取り憑かれ、鈴鹿サーキットで開催されるF1日本グランプリにこれまで20回以上、足を運び、現地観戦している。さらに、F1に留まらず、Super FormulaやSuper GTなどのレースも観戦してきたモータースポーツファンの一人である。本特集は、企画立案から記事の構成や執筆者選定まで、モータースポーツファンである私が中心となって検討した。その結果、従来の学術論文を中心とした特集号とは少し毛色の違う体裁の記事を含むこととなり、違和感を抱く読者の方もいるかもしれない。この点については、編集委員会でも議論になったことは事実である。仮に、スポーツやエンターテインメントとしての側面だけに焦点を当てて記事を集めたとしたら、IATSS Reviewとして相応しい特集号ではなくなってしまったであろう。しかし、モータースポーツは、走る実験室と称されることもあるように、四輪車や二輪車に関連する最先端の技術開発の場でもある。しかも、モーター

スポーツの基本である『速く走る』ための技術開発だけではない。かつてはレース中の事故でドライバーやライダー、さらには観客が亡くなることも少なくなかったが、車両ならびにコースの安全対策が進むにつれて、被害は大幅に減少してきた。また、近年では搭載できる燃料の制約が課せられるなど、液体燃料を用いないカテゴリもできている。従って、このような車両運動性能向上／安全性向上／燃費向上などに関する技術動向や歴史を本特集で伝えることは、IATSS Reviewの読者にとって有意義なものになると確信している。

2. 本特集の構成

本特集に掲載する記事7編は、下記の通りである。

- ・ 世界のモータースポーツ
 - そのカテゴリと歴史 –
- ・ 四輪モータースポーツとレギュレーション
- ・ モータースポーツにおける最新技術と展望
- ・ 二輪車のモータースポーツ
- ・ レース用タイヤの歴史と技術開発
- ・ 鈴鹿サーキットにおける安全対策と救急体制
- ・ 学生フォーミュラ大会について

掲載記事の内容について順に概説すると、まず本特集号のトップバッターとなるのは、モータースポーツに関する文献資料を読み解き、多くの原稿を執筆してきた林信次氏の「世界のモータースポーツ – そのカテゴリと歴史 –」である。

1894年にフランスで開催された世界最初の自動車レースから、世界各国で開催されてきた多種多様なレースについて、歴史的な背景や技術的な変遷を俯瞰する形でまとめられている。この記事では、ヨーロッパ、アメリカ、日本の三極それぞれにおいて、

* 名古屋大学未来社会創造機構
Institutes of Innovation for Future Society,
Nagoya University

どのようなカテゴリが人気を集めて発展してきたかが時系列的に書かれており、最後には、未来のモータースポーツについて、筆者なりの展望も述べられている。

続いて、ホンダF1プロジェクトでレギュレーションの技術的解釈を行っていた田中尋真氏に、「四輪モータースポーツとレギュレーション」を執筆していただいた。一般にスポーツというものは、あらかじめ決められた規則（レギュレーション）のもとで実施される。モータースポーツでは、人が機械を操って競うため、四輪車や二輪車に対してさまざまなレギュレーションが定められている。技術者たちは、毎年のように改訂されるレギュレーションを独自に解釈した上で、違反とならない範囲で最大限の工夫を施し、他チームよりも優位に立とうとする。本稿では、レギュレーションの基本要件・基本構成や、その記述法について簡潔にまとめられている。さらに、チームとFIAの間でレギュレーションの解釈が異なったが故に、チームの講じた対策が規定違反となって処分された例や、FIA側の想定を超えた工夫が翌年以降のレギュレーション改訂で禁じられた例なども述べられている。

3つ目は、技術系解説記事を中心に多数の著書が出版されている世良耕太氏による「モータースポーツにおける最新技術と展望」である。本稿では、パワーユニット、空力、車両運動性能技術というモータースポーツにおける三大要素の最新技術が概説されている。特に、ハイブリッド化と電動化は、市販車に先んじる形でモータースポーツにおいて多くの技術開発が行われている。その結果がフィードバックされることで、より良い性能のシステムが市販されると言っても過言ではない。

モータースポーツは四輪車だけでなく、二輪車にも存在し、世界中で開催されている。しかも、サーキットを速く走るロードレース、自然の中を長距離走るラリーやエンデューロといった四輪車にもあるような「速く走らせる」カテゴリだけでなく、車体を操って障害物を乗り越えていく「技を競い合う」トライアルという二輪独特のカテゴリもある。「二輪車のモータースポーツ」と題して、モータースポーツライターである今井清和氏に、各種カテゴリの紹介と車両の技術的変遷を紹介していただいた。

四輪車・二輪車ともに、いくら車体性能に優れて

いても、その力を路面に伝えるタイヤ性能が低ければ、本来の性能を発揮することはできない。本特集では、浜島裕英氏に「レース用タイヤの歴史と技術開発」と題して、F1用タイヤの技術開発と規定改訂の歴史、安全や環境に対する影響などについてまとめていただいた。

鈴鹿サーキットにおける安全対策の変遷とその効果については、「鈴鹿サーキットにおける安全対策と救急体制」との題で、橋田克己氏にご寄稿いただいた。本稿を読むことで、予防安全と衝突安全を十分に確保するには、ハード、ソフト、人間の3つの要素に関して、さまざまな対策がなされているだけでなく、多くのスタッフが陰ながら支えていることがわかるだろう。

世界で統一されたレギュレーションを満たすマシンを、大学生が企画・設計・制作し、自分たちの手で走らせ、各種競技を競う学生フォーミュラ大会がある。この大会は、1981年に米国で最初に始められ、日本では2003年に第一回大会が開催された。長年にわたって大会運営に携わってきた山岸康一氏に執筆いただいた「学生フォーミュラ大会について」では、大会の歴史や運営方針、参加車両に定められた車両規則、審査項目、さらには技術トレンドなどがまとめられている。

3. おわりに

本特集では、モータースポーツの歴史だけでなく、技術の変遷、安全確保のためのインフラ側の対策、最新技術の紹介、レースそのものの魅力などについて幅広く紹介している。これは、自然・社会・人文など複数の領域にまたがる「学際性」を重んじて、交通社会の諸問題に取り組むIATSSの趣旨に合致した内容であると自負している。また、本特集記事を読むことで、モータースポーツに興味を持つ人が増え、今後の新しい自動車文化を育む一助となれば幸いである。

本特集の構成ならびに著者選定・依頼にあたり、かつてF1の全戦で現地取材を行っていたジャーナリストである川喜田研氏に多大なる御協力を賜った。同氏の協力なしでは、このような魅力的かつ豪華な執筆陣を集めることはできなかったことは明白である。ここに記して感謝の意を表す。